

## 第2章 観測とデータ

沖縄気象台の発表した1987年の沖縄地方の梅雨期間は5月13日から6月26日の45日間である。ドップラーレーダー観測は5月21日から6月15日の25日間行われた。

図2.1は今回の特別観測で使用した気象研究所の可搬型ドップラーレーダーと沖縄気象台管内の3つの現業レーダーの位置と観測範囲を示す。表2.1は可搬型ドップラーレーダーの諸元を示す。ドップラーレーダーは那覇市首里当蔵町の標高100mの岡の上に設置された。特別高層観測は那覇市の沖縄気象台構内で行われた。現業の高層観測地点は沖縄本島那覇市、石垣島、南大東島である。

解析にはこれらの観測から得られるデータに加えて、沖縄気象台管内の気象官署の地上観測データ、気象庁気象衛星センター提供のGMS赤外ヒストグラムデータ、気象庁数値予報課作製の全球客観解析データ(Global Analysis Data, 略してGANALデータと呼ぶ)、気象庁観測部作製のAMeDAS地上観測データ、沖縄開発庁八重岳5cm気象レーダーのデータを用いた。

なおこの観測の参加者は以下のとおりである。

- ・ドップラーレーダー観測および高層観測

石原正仁, 田畑 明, 赤枝健治 (台風研究部)

横山辰夫 (学術振興会特別研究員後に気象衛星・観測システム研究部, 現福岡管区気象台)

- ・気象研究所における気象情報収集と観測支援作業

榊原 均 (予報研究部, 現台風研究部)

表2.1 気象研究所可搬型ドップラーレーダーの諸元

波長 (cm)	3.06
パルス幅 ( $\mu$ sec)	1.0
尖頭出力 (kW)	50
最少受信感度 (dBm)	-105
ビーム幅 (deg)	1.0
繰り返し周波数 (Hz)	2000
折り返し速度 (m/s)	$\pm 15.3$
探知範囲 (km)	
(ドップラー速度の場合)	64
レンジ分解能 (m)	250
設置場所	可搬

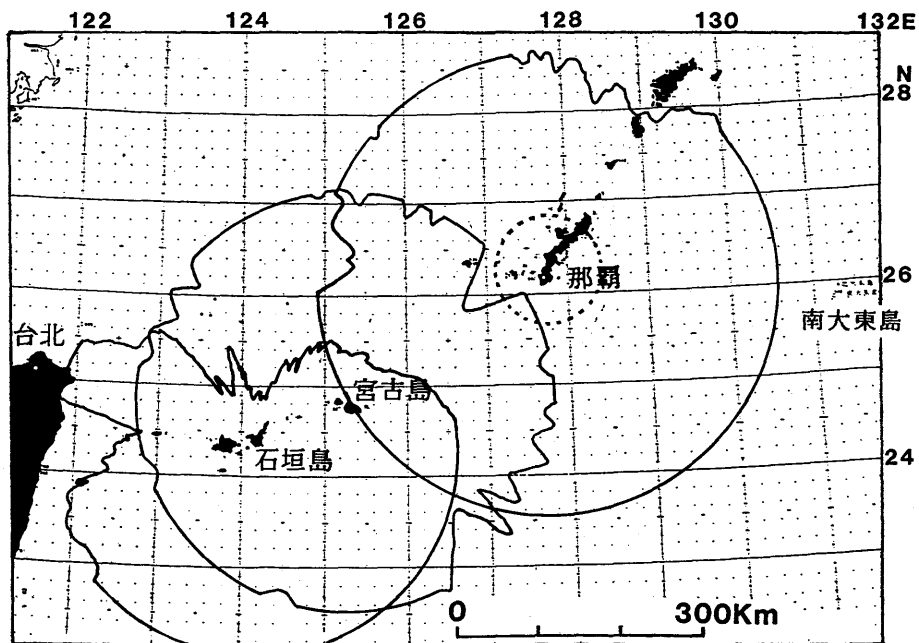
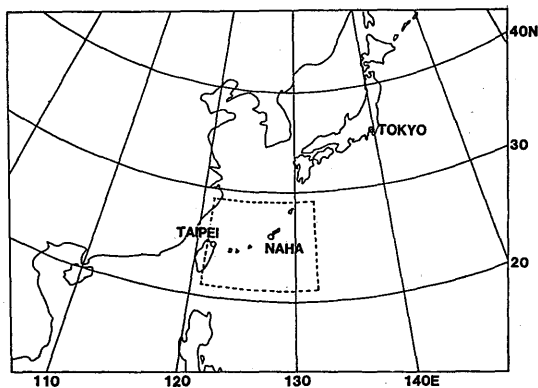


図2.1 「沖縄地方」と那覇、宮古島、石垣島の現業レーダー(実線)とドップラーレーダー(破線)の観測範囲。